

戸建住宅で共同物流

日梱 潜在需要を掘り起こし

日本梱包運輸倉庫(本社・東京、黒岩正勝社長)は昨年、戸建て住宅建材を建築現場などに共同配送するサービスを展開している。品質とコストを武器に需要の掘り起こしを進める。

(矢田 健一郎)



黒岩 正勝社長

日梱は従来、自動車の分野で幹線輸送や販売店配送の共同物流を行ってきた。住宅でも共同化への潜在需要を見込み、提案営業をかけている。

着工時期によっては納期がずれる建材もあるため、既存のルート配送を使って納期に届けるなど工夫する。

日梱は、「顧客は高品質な貸し切り便へのこだわりを持つと同時に、低価格輸送も望んでいる。住宅物流専用の道具と長年培ったノウハウを生かして、高品質でリーズナブルな輸送を提案していきたい」と需要の掘り

起こしを図る考えだ。

システムキッチンや衛生陶器など建材ごとに個別に行っていた現場や工務店への納品を共同化。各建材をいったんセンターで納品先別に仕分け、一括で配送する。荷物を積み合わせることで、貸し切り輸送より積載効率を高められる。顧客にとっては物流コスト低減につながる。